

テレビドラマが風見鶏の館を救った経緯

「風見鶏」というタイトルのテレビドラマは、20世紀初頭の神戸北野異人館街を舞台にしており、1970年代後半に放映された際、この地域への関心が急増しました。風見鶏は、1909年頃に建てられ、塔の上にユニークな風見鶏があることから「風見鶏の館」として親しまれている旧トマス邸に着想を得ていました。物語は大正時代（1912～1926）に始まり、神戸でパン屋を営むドイツ人と結婚したヒロインを中心に展開しました。実際のトマス邸やトマス一家はドラマには描かれていませんが、神戸の国際通りにおける生活の雰囲気を鮮やかに捉えていました。

この人気ドラマは日本のテレビ局のNHKによって制作され、1977年10月から1978年4月まで、週6日、毎朝15分間のエピソードが150回以上放映されました。このドラマはすぐに大衆の想像力を捉え、人々に神戸の異人館について一般的にもっと知りたい、そこに実際に訪れたいと思わせました。この顕著な関心と観光意欲の高まりは、1979年に神戸市が北野町・山本通り重要伝統的建造物群保存地区を創設し、その後そこにある歴史的建造物を修復し公開するという決定を下す上で、大きな要因となりました。

意外な経緯を経て、子ども時代に風見鶏の館で暮らしており、当時ドイツに住んでいたエル

ゼ・カルボー（旧姓トーマス）は、このドラマと家への関心について耳にし、その保存に協力する意思を示しました。彼女は家の元の状態を示す多くの写真や文書を携えて 1979 年に神戸を訪れました。これらの資料は、修復を監督する専門家にとって貴重な記録となりました。ドラマ「風見鶏」のおかげで、風見鶏はやがて神戸のユニークな文化と歴史の象徴となり、市の標識から消火栓に至るまで、あらゆるところに登場するようになりました。